

平成25年度 下呂市公営企業会計決算審査意見書

下呂市水道事業会計決算審査

下呂市下呂温泉合掌村事業会計決算審査

下呂市立金山病院事業会計決算審査

平成26年 8月21日

下呂市監査委員

監 査 第 15 号
平成 26 年 8 月 21 日

下呂市長 野村 誠 様

下呂市監査委員 杉 山 好 巳
下呂市監査委員 今 井 美 好

平成 25 年度下呂市公営企業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定に基づき、審査に付された平成 25 年度の下呂市水道事業会計、下呂市下呂温泉合掌村事業会計、下呂市立金山病院事業会計の決算について審査したので、次のとおり審査意見を提出します。

目 次

第1	審査の対象	6 1
第2	審査の期間	6 1
第3	審査の手続	6 1
第4	審査の結果	6 1
第5	決算の概要	6 2
第1節 下呂市水道事業会計		
1	業務の概要	6 2
	(1) 業務状況について	6 2
	(2) 労働生産性について	6 4
2	予算執行状況	6 4
	(1) 収益的収入及び支出について	6 4
	(2) 資本的収入及び支出について	6 5
3	経営成績	6 5
	(1) 営業収益及び営業費用について	6 6
	(2) 営業外収益及び営業外費用について	6 6
	(3) 特別損失について	6 6
	(4) 供給単価及び給水原価について	6 6
	(5) 収支比率について	6 7
	(6) 収支について	6 7
4	財政状態	6 8
	(1) 資産について	6 8
	(2) 負債について	6 8
	(3) 資本について	6 9
	(4) 財務比率について	6 9
5	むすび	7 0
第2節 下呂市下呂温泉合掌村事業会計		
1	業務の概要	7 1
	(1) 業務状況について	7 1
	(2) 労働生産性について	7 1
2	予算執行状況	7 2
	(1) 収益的収入及び支出について	7 2
	(2) 資本的収入及び支出について	7 3
3	経営成績	7 4
	(1) 営業収益及び営業費用について	7 4
	(2) 営業外収益及び営業外費用について	7 4
	(3) 特別利益及び特別損失について	7 4

(4) 収支比率について	-----	74
(5) 収支について	-----	75
4 財政状態	-----	75
(1) 資産について	-----	75
(2) 負債について	-----	76
(3) 資本について	-----	76
(4) 財務比率について	-----	76
5 むすび	-----	77
第3節 下呂市立金山病院事業会計		
1 業務の概要	-----	79
(1) 業務状況について	-----	79
(2) 診療科別入院・外来患者数について	-----	80
2 予算執行状況	-----	81
(1) 収益的収入及び支出について	-----	81
(2) 資本的収入及び支出について	-----	82
3 経営成績	-----	83
(1) 医業収益及び医業費用について	-----	83
(2) 医業外収益及び医業外費用について	-----	83
(3) 特別利益及び特別損失について	-----	84
(4) 収支について	-----	84
4 財政状態	-----	84
(1) 資産について	-----	84
(2) 負債について	-----	84
(3) 資本について	-----	85
(4) 財務比率について	-----	85
5 むすび	-----	86
決算審査資料	-----	87

意見書の記述にあたって

- 1 本書において文中及び各表中の金額は、原則として円単位で表示した。なお千円単位、百万円単位で表示した場合、その単位未満は四捨五入した。
また、構成比、増減率のパーセント表示については、原則として小数点以下2位を四捨五入した。したがって、金額合計又は構成比率について、それぞれの内訳数値の合計と一致しない場合がある。
- 2 増減率は、特記ある場合を除き前年度に対する増減率である。
- 3 年度について、元号を省略表示したものの当該元号はすべて「平成」である。
- 4 次の用語又は記号の意義は、それぞれ次に掲げるとおりである。
 - (1) 「ポイント」・・・比率又は指数について、年度間比較等を行った場合の単純差引数値をいう。
 - (2) 「－」・・・該当する数値のない場合
 - (3) 「△」・・・年度間の数値比較でマイナスとなる場合
 - (4) 「皆増」・・・前年度該当数値がなく全額増加したもの。
 - (5) 「皆減」・・・前年度該当数値があり全額減少したもの。

平成 25 年度 下呂市公営企業会計決算審査意見

第 1 審査の対象

平成 25 年度下呂市水道事業会計決算
平成 25 年度下呂市下呂温泉合掌村事業会計決算
平成 25 年度下呂市立金山病院事業会計決算

第 2 審査の期間

平成 26 年 6 月 24 日から平成 26 年 7 月 18 日まで

第 3 審査の手続

審査に付された決算報告書、財務諸表、附属書類について、関係法令に準拠して作成され、当事業の経営状況及び財務状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計帳票及び関係証書類との照合等審査手続を実施した。

第 4 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、当事業の当年度の経営状況及び当年度末現在の財務状態を適正に表示されているものと認められた。

なお、決算の概要は、次のとおりである。

第5 決算の概要

第1節 下呂市水道事業会計

1 業務の概要

(1) 業務状況について

当年度の給水人口は 6,958 人で、人口減少などにより前年度に比べ 117 人減少し、給水件数は 3,163 件で前年度に比べ 23 件減少した。給水量は 1,764,525 m³で、前年度に比べ 26,361 m³減少した。また、建設改良費で主なものとして、下呂温泉病院の新設に伴う森中区配水池増設工事、森中区配水池場内配管工事、東上田取水場の改良及び耐震補強のための実施設計業務を行った。

業務の概況は、次表のとおりである。

ア. 給水の状況

区 分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
行政区域内人口	人	37,355	36,905	36,409	35,797	35,201
給水区域内人口	人	7,468	7,232	7,190	7,131	7,015
給水人口	人	7,397	7,154	7,128	7,075	6,958
給水件数	件	3,222	3,205	3,194	3,186	3,163
給水量	m ³	1,872,945	1,884,830	1,797,044	1,790,886	1,764,525
1日平均給水量	m ³	5,131	5,164	4,910	4,907	4,834
1日1人平均給水量	ℓ	694	722	691	694	695
配水量	m ³	2,271,488	2,311,702	2,297,415	2,312,024	2,336,123
1日平均配水量	m ³	6,223	6,333	6,277	6,334	6,400
1日最大配水量	m ³	8,272	8,068	7,949	8,285	7,993
1日1人最大配水量	ℓ	1,118	1,128	1,115	1,171	1,149
有収水量	m ³	1,866,226	1,874,198	1,788,251	1,783,546	1,747,073
1日平均有収水量	m ³	5,113	5,135	4,886	4,886	4,787
有収率	%	82.16	81.07	77.84	77.14	74.79

イ. 口径別給水状況

 (単位：件・m³)

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
φ13	件 数	2,880	2,866	2,857	2,848	2,827
	有収水量	654,195	662,655	643,558	642,188	621,450
φ20	件 数	148	147	148	150	154
	有収水量	119,493	100,835	100,678	99,454	96,538
φ25	件 数	97	97	96	96	93
	有収水量	148,294	159,295	142,288	139,752	135,760
φ30	件 数	30	31	32	32	30
	有収水量	66,502	65,592	65,569	65,296	78,445
φ40	件 数	33	32	30	29	28
	有収水量	182,306	190,621	202,451	206,294	193,919
φ50	件 数	31	29	28	28	28
	有収水量	426,477	425,369	399,589	388,817	373,932
φ75	件 数	3	3	3	3	3
	有収水量	268,959	269,831	234,118	241,745	247,029
計	件 数	3,222	3,205	3,194	3,186	3,163
	有収水量	1,866,226	1,874,198	1,788,251	1,783,546	1,747,073

ウ. 用途別給水状況

 (単位：件・m³)

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
一般家庭用	件 数	2,492	2,481	2,475	2,476	2,467
	有収水量	658,858	655,710	644,422	640,740	627,458
官公署用	件 数	103	103	103	102	98
	有収水量	91,925	90,441	87,783	89,124	94,822
学 校 用	件 数	7	5	5	5	4
	有収水量	14,047	10,904	8,351	8,841	6,870
営 業 用	件 数	389	393	392	384	377
	有収水量	187,317	184,495	171,611	175,464	164,277
旅 館 保 養 所 用	件 数	75	73	72	72	71
	有収水量	872,431	899,580	842,787	828,989	810,934
公衆浴場用	件 数	3	3	3	3	3
	有収水量	8,164	7,401	8,564	10,234	8,364
工 場 用	件 数	12	12	10	10	10
	有収水量	8,303	3,608	4,277	6,804	7,672
そ の 他	件 数	141	135	134	134	133
	有収水量	25,181	22,059	20,456	23,350	26,676
計	件 数	3,222	3,205	3,194	3,186	3,163
	有収水量	1,866,226	1,874,198	1,788,251	1,783,546	1,747,073

(2) 労働生産性について

最近5年間の労働生産性を表す指標は、次表のとおりである。

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
職 員 数 (人)	3	3	3	4	3
職員1人当たり給水人口(人)	2,466	2,385	2,376	1,769	2,319
職員1人当たり給水量(m ³)	622,075	624,733	596,084	445,887	582,358
職員1人当たり営業収益(千円)	82,774	82,520	79,071	59,160	77,454

この指標は、有収水量及び営業収益の視点から職員の労働生産性を示すものであり、この数値が高いほど職員1人当たりの生産性が高いことを示す。当年度の職員1人当たり給水量は、582,358 m³で、前年度対比136,471 m³ (30.6%)の増となっている。これは、職員数1名の減が主な要因である。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出について

収益的収入の決算額は246,588,781円であり、予算額244,360,000円に対し、2,228,781円の増となった。収益的収入の内訳は、営業収益243,978,666円及び営業外収益2,610,115円である。収益的収入を前年度と比較すると、3,217,593円の減となった。

事業費用の決算額は233,635,280円であり、予算額248,118,000円に対し、14,482,720円が不用額となった。事業費用の内訳は、営業費用219,849,854円(94.1%)、営業外費用11,555,236円(5.0%)、特別損失2,230,190円(0.9%)である。事業費用を前年度と比較すると、13,263,028円の減となった。

収 入

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
水道事業収益	244,360,000	246,588,781	2,228,781	249,806,374	△3,217,593
営業収益	243,859,000	243,978,666	119,666	248,473,953	△4,495,287
営業外収益	501,000	2,610,115	2,109,115	1,332,421	1,277,694
特別利益	0	0	0	0	0

支 出

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
水道事業費用	248,118,000	233,635,280	14,482,720	246,898,308	△13,263,028
営業費用	230,007,000	219,849,854	10,157,146	230,411,626	△10,561,772
営業外費用	15,429,000	11,555,236	3,873,764	11,867,268	△312,032
特別損失	2,282,000	2,230,190	51,810	4,619,414	△2,389,224
予備費	400,000	0	400,000	0	0

(2) 資本的収入及び支出について

資本的収入の決算額は76,121,500円であり、予算額79,576,000円に対し、3,454,500円の減となった。資本的収入の内訳は、企業債74,900,000円(98.4%)、負担金1,221,500円(1.6%)である。資本的収入を前年度と比較すると、75,659,500円の増となった。これは、主に企業債74,900,000円の増によるものである。

資本的支出の決算額は133,334,868円であり、予算額155,671,000円に対し、22,336,132円が不用額となった。資本的支出の内訳は、建設改良費117,449,060円(88.1%)及び企業債償還金15,885,808円(11.9%)である。資本的支出を前年度と比較すると、66,019,472円の増となったが、主に森中区配水池増設工事など建設改良費の増によるものである。

森中区配水池増設工事	57,766,800円
東上田取水場改良及び耐震補強実施設計業務	19,950,000円
森中区配水池場内配管工事	15,499,050円

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額57,213,368円は、当年度分損益勘定留保資金51,667,868円、及び消費税資本的収支調整額5,545,500円で補てんされている。

収 入 (単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的収入	79,576,000	76,121,500	△3,454,500	462,000	75,659,500
企業債	79,000,000	74,900,000	△4,100,000	0	74,900,000
負担金	576,000	1,221,500	645,500	462,000	759,500
国庫補助金	0	0	0	0	0

支 出 (単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的支出	155,671,000	133,334,868	22,336,132	67,315,396	66,019,472
建設改良費	139,785,000	117,449,060	22,335,940	51,751,010	65,698,050
企業債償還金	15,886,000	15,885,808	192	15,564,386	321,422

3 経営成績

当年度における損益計算書の内訳は、決算審査資料 別表1のとおりである。当年度の経営収支は、総収益233,282,212円に対し、総費用230,859,750円で、差し引き2,422,462円が当年度純利益となった。

最近5年間の総収益に対する総費用は、次表のとおりである。

(単位：円 税抜)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
総 収 益	252,579,608	249,007,070	238,284,951	237,974,107	233,282,212
総 費 用	153,447,700	145,016,522	153,416,833	244,141,417	230,859,750
差 引 額	99,131,908	103,990,548	84,868,118	△ 6,167,310	2,422,462

(1) 営業収益及び営業費用について

営業収益は232,360,653円で、総収益の99.6%である。営業収益の内訳は、給水収益232,185,393円及びその他営業収益175,260円である。営業収益を前年度と比較すると、4,281,237円の減となったが、これは給水収益の減によるものである。

営業費用は217,180,509円で、総費用の94.1%である。営業費用の内訳は、原水及び浄水費39,858,573円、配水及び給水費5,445,624円、総係費38,305,549円、減価償却費133,406,549円、資産減耗費164,214円である。営業費用を前年度と比較すると、10,694,187円の減となったが、これは主に職員数の1名減による総係費8,718,975円の減によるものである。

(2) 営業外収益及び営業外費用について

営業外収益は921,559円で、総収益の0.4%である。営業外収益の内訳は、受取利息252,053円及び雑収益669,506円である。営業外収益を前年度と比較すると、410,658円の減となったが、これは主に雑収益506,438円の減によるものである。

営業外費用は11,555,236円で、総費用の5.0%である。営業外費用の内訳は支払利息である。営業外費用を前年度と比較すると、312,032円の減となった。

(3) 特別損失について

特別損失は、過年度未収金不納欠損等による過年度損益修正損2,124,005円で、総費用の0.9%である。

(単位：円)

区 分	25年度		24年度		対前年度増減	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
水 道 料 金	22	2,201,190	14	4,619,414	8	△2,418,224

当年度の不納欠損額は2,201,190円で、前年度に比べ2,418,224円の減となった。これは地方自治法施行令第171条の5による徴収停止である。

(4) 供給単価及び給水原価について

当年度の営業収益のうち給水収益は232,185,393円で、これを年間総有収水量1,747,073m³で除すると、1m³当たりの供給単価は132.90円、一方、給水原価は営業費用と営業外費用の合計額

228,735,745 円を年間総有収水量で除すると、1 m³当たり 130.93 円になり、差引き 1.97 円の販売益が生じている。これらを前年度と比較すると、供給単価は 0.32 円の増、給水原価は 3.49 円の減となった。給水原価が減ったのは、主に総係費の減によるものである。なお 1 m³当たりの給水原価が 24 年以降高いのは減価償却費（東上田新浄水場）の増によるものである。

最近 5 年間の供給単価・給水原価は、次表のとおりである。

(単位：円)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
1 m ³ 当たり供給単価	132.95	131.97	132.53	132.58	132.90
1 m ³ 当たり給水原価	79.52	77.38	85.79	134.42	130.93
差 引	53.43	54.59	46.74	△ 1.84	1.97

(5) 収支比率について

最近 5 年間の収支比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
総収支比率 (総収益対総費用比率)	164.6	171.7	155.3	97.5	101.0
営業収支比率 (営業収益対営業費用比率)	177.0	180.4	166.8	103.8	107.0

総収支比率は、総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。100%を超えた場合は、当該超えた比率分が費用に対する利益の程度を示すもので、100%を下回った場合は、当該下回った比率分が費用に対する損失の程度を示すものである。前年度と比較すると、3.5 ポイント増加し、101.0%となった。

営業収支比率は、営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が高いほど営業利益率が良いことを表し、100%を下回った場合は、営業損失が生じている。前年度と比較すると 3.2 ポイント増加し、107.0%となった。

総収支比率、営業収支比率ともに微増となった要因は、給水収益の減少(△4,275,522)に対し、総係費がそれ以上に減少(△8,718,975)しているためである。

(6) 収支について

営業収益 232,360,653 円から営業費用 217,180,509 円を差し引いた 15,180,144 円が、営業利益である。営業利益に営業外収益 921,559 円を加え、営業外費用 11,555,236 円を差し引いた 4,546,467 円が経常利益である。また、特別損失は 2,124,005 円であるため、差し引き 2,422,462 円が当年度純利益となり、前年度繰越利益剰余金 116,691,356 円を加えると、当年度未処分利益剰余金は 119,113,818 円となった。

4 財政状態

当年度における貸借対照表の内訳は、決算審査資料 別表2のとおりである。

(1) 資産について

当年度末における資産総額は 3,821,782,587 円である。この内訳は、固定資産 3,302,359,558 円(86.4%)、流動資産 519,423,029 円(13.6%)である。固定資産を前年度と比較すると、21,647,283 円の減となったが、主なものは機械及び装置 57,577,803 円の減と構築物 35,056,294 円の増によるものである。流動資産を前年度と比較すると、131,373,833 円の増となったが、これは主に、工事の未払いや起債による現金・預金 131,224,005 円の増によるものである。

前年度未収金の状況は、次のとおりである。

(単位：円、税込)

区 分	14~20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	合 計
年度別未収額	841,617	98,460	1,449,156	1,480,474	21,671,107	25,540,814
25年度収納額	72,216	19,305	23,125	415,943	20,538,842	21,069,431
25年度不納欠損額	217,340	0	1,121,185	862,665	0	2,201,190
25年度末 未収残高	552,061	79,155	304,846	201,866	1,132,265	2,270,193

※平成24年度の年度別未収額が多いのは、25年3月分が4月に収納されたためである。

最近5年間の資産構成比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定資産構成比率	79.1	83.2	92.1	89.5	86.4
流動資産構成比率	20.9	16.8	7.9	10.5	13.6

固定資産構成比率及び流動資産構成比率は、それぞれ総資産に対する固定資産及び流動資産の占める割合である。固定資産構成比率が大きければ資本が固定化の傾向にあり、また、流動資産構成比率が大きいと流動性は良好であるといえる。両方の比率の合計は 100%となり、前年度に比べ、固定資産構成比率は 3.1 ポイント低下し 86.4%、流動資産構成比率は、3.1 ポイント上昇し 13.6% となっている。

(2) 負債について

当年度末における負債総額は、105,991,040 円である。この内訳は、未払金 86,755,951 円(81.9%)、その他流動負債 19,235,089 円(18.1%)である。負債総額を前年度と比較すると、47,110,896 円の増となったが、これは主に森中区配水池増設工事等の完成払が 4 月になったことによる未払金 51,905,855 円の増によるものである。

(3) 資本について

当年度末における資本総額は、3,715,791,547円である。この内訳は自己資本金2,148,444,678円(57.8%)、借入資本金648,184,552円(17.4%)、資本剰余金666,801,392円(18.0%)、利益剰余金252,360,925円(6.8%)である。資本金を前年度と比較すると、59,014,192円の増となったが、これは企業債の借り入れによる借入資本金の増によるものである。

剰余金を前年度と比較すると、3,601,462円の増となったが、これは主に利益剰余金の増によるものである。

(4) 財務比率について

固定比率は、固定資産のうち自己資本の占める割合を示すもので100%以下が望ましい。当年度は、107.7%で、前年度より0.8ポイント低下している。

流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、通常200%以上が望ましいとされている。当年度は、490.1%で、前年度より168.9ポイント低下している。

当座比率は、流動資産のうち現金預金及び容易に現金化する未収金などの当座資産と流動負債とを対比させたもので、通常100%以上が望ましいとされている。当年度は、482.1%で、前年度より162.8ポイント低下している。

自己資本構成比率は、総資本に対する自己資本の割合であり、その比率が高いほど健全性が高いとされている。当年度は、80.3%で、前年度より2.2ポイント低下している。

最近5年間の財務比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定比率	103.2	106.9	111.2	108.5	107.7
流動比率	166.8	241.0	964.0	659.0	490.1
当座比率	165.1	238.2	934.3	644.9	482.1
自己資本構成比率	76.6	77.8	82.9	82.5	80.3

注1：固定比率 [固定資産 ÷ (自己資本金+剰余金) × 100]

2：流動比率 [流動資産 ÷ 流動負債 × 100]

3：当座比率 [(現金預金 + 未収金) ÷ 流動負債 × 100]

4：自己資本構成比率 [(自己資本金 + 剰余金) ÷ 負債資本合計 × 100]

5 むすび

給水状況の推移をみると水需要は逡減しており、平成 25 年度末の給水人口は 6,958 人で、過去 5 年間で 5.9%減少、給水件数は 3,163 件となり同じく過去 5 年間で 1.8%減少している。また、年間総配水量は 233 万 6,123 m³で、前年度に比べ 1.0%増加している一方で、年間総有収水量は 174 万 7,073 m³で、前年度に比べ 2.0%減少したことから、有収率は 74.79%と、前年度に比べ 2.35 ポイント低下している。漏水調査やその対策はおこなわれているものの、全国平均を大きく下回っているため、「下呂市水道ビジョン」の目標値 90%に向けて一層の努力を望むものである。

次に経営成績をみると、営業収益は、前年度に比べ給水収益の減（1.8%）によって 428 万 1,237 円、1.8%減少している。営業費用についてみると、前年度に比べ原水及び浄水費が増加（12.4%）したものの、職員数の減等により総係費が減少（18.5%）、また、配水管敷設替にかかる固定資産除却費の減により資産減耗費が減少（96.8%）した。こうしたことから営業費用は 1,069 万 4,187 円、4.7%減少している。その結果、営業利益は、前年度に比べ 641 万 2,950 円、73.1%増加して 1,518 万 144 円となり、経営の健全度を示す営業収支比率は、前年度に比べ 3.2 ポイント改善され 107.0%となっている。営業利益に営業外収益、営業外費用、特別損失を加減すると、当年度は 242 万 2,462 円の純利益となり、総収支比率は、前年度に比べ 3.5 ポイント改善され 101.0%と、黒字に転換した。1 m³当たりの供給単価は 132 円 90 銭となり、これに対して給水原価は 130 円 93 銭で、前年度に比べ給水原価が減少したことにより、差し引き 1 円 97 銭の販売利益が生じたが、東上田新浄水場の減価償却費が、前年度から給水原価を引き上げている。

平成 25 年度末の企業債未償還残高は 6 億 4,818 万 4,552 円で、県立病院新設に伴う配水池増設工事による企業債発行が償還額を超えたため、前年度に比べ 5,901 万 4,192 円増加している。

給水人口の減少に加え、節水意識が高まり、節水機器の普及などによる水需要の減少は構造的なものとなっている一方で、老朽管の更新、耐震化等の維持管理経費の増大が予測されることから収益力は低下し、水道事業を取り巻く状況はますます厳しいものとなる。水道事業は、市民生活はもとより、特に本市においては、年間総有収水量に占める旅館保養所用の割合が 46.4%となっており、基幹産業である観光に欠かすことのできない基盤であることから、「下呂市水道ビジョン」に基づいた効率的な経営の促進が図られることを望むものである。

第2節 下呂市下呂温泉合掌村事業会計

1 業務の概要

(1) 業務状況について

当年度の入場者数は166,342人で、前年度より5,979人の増となった。これは、有料入場者が191人減となったものの、無料入場者が6,170人増となったためである。

一方、しらさぎ座の利用者数は、公演日数の減などにより、利用者数は39,169人となり、前年度より4,875人の減となった。

また、建設改良費の主なものとして、飛驒工房（漣倉）茅葺屋根葺替工事14,847,000円を行った。

業務の概況は、次表のとおりである。

区 分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
有料入場者数①	人	159,300	153,894	160,263	156,963	156,772
無料入場者数②	人	3,091	2,374	2,665	3,400	9,570
入場者数合計①+②	人	162,391	156,268	162,928	160,363	166,342
営業日数	日	361	365	366	365	365
1日平均入場者数	人	441	428	445	439	455
森の滑り台利用者数	人	18,502	13,908	20,867	22,015	23,695
しらさぎ座利用者数	人	41,140	34,238	39,433	44,044	39,169

下呂温泉の宿泊客数に対する合掌村入場者数の割合（宿泊客対比）は約16.3%で、前年度と比較して0.5ポイント増加した。比率が伸びた主な要因は、無料入場者の増によるものである。

なお、最近5年間の数値は、次表のとおりである。

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数（人）	162,391	156,268	162,928	160,363	166,342
宿泊者数（人）	1,008,368	965,369	1,003,361	1,015,276	1,017,908
宿泊客対比（%）	16.1%	16.2%	16.2%	15.8%	16.3%

注：宿泊客対比は、宿泊者数に対する合掌村入場者数の割合

(2) 労働生産性について

最近5年間の労働生産性を表す指標は、次表のとおりである。

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
職 員 数 (人)	27	26	26	24	20
平均給与 (千円)	3,824	3,650	3,742	3,820	4,212
労働生産性 (千円)	8,078	8,197	8,570	9,424	11,797
労働分配率 (%)	47.3	44.5	43.7	40.5	35.7

注：労働生産性：営業収益を職員数で除した数値（従業員1人当たりどれだけの付加価値を生み出しているかを表す指標）

労働分配率：平均給与を労働生産性で除した数値×100（付加価値のうち人件費の占める割合）

職員数と業務量の関係を示す労働生産性をみると職員1人当たり11,796,966円で、前年度9,424,390円と比較して2,372,576円の増となっている。これは、職員数が4名減となったためである。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出について

収益的収入の決算額は248,866,119円であり、予算額293,860,000円に対し、44,993,881円の減である。これは実際の入場者数が、当初の見込み入場者数を大きく下回ったことによる。収益的収入の内訳は、営業収益247,675,935円(99.5%)、営業外収益837,460円(0.3%)及び特別利益352,724円(0.2%)である。収益的収入を前年度と比較すると、10,700,557円の増で、営業収益の販売収益が増えたことによる。

収益的支出の決算額は316,827,473円であり、予算額320,065,000円に対し、3,237,527円が不用額となった。収益的支出の内訳は、営業費用310,687,301円(98.1%)、特別損失6,140,172円(1.9%)である。収益的支出を前年度と比較すると、34,046,046円の増となった。これは、主に営業費用の資産減耗費の増によるものである。

収 入

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
事業収益	293,860,000	248,866,119	△44,993,881	238,165,562	10,700,557
営業収益	292,808,000	247,675,935	△45,132,065	237,425,158	10,250,777
営業外収益	1,052,000	837,460	△214,540	740,404	97,056
特別利益	0	352,724	352,724	0	352,724

支 出

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
事業費用	320,065,000	316,827,473	3,237,527	282,781,427	34,046,046
営業費用	307,055,000	310,687,301	△3,632,301	282,748,554	27,938,747
営業外費用	3,270,000	0	3,270,000	32,873	△32,873
特別損失	8,740,000	6,140,172	2,599,828	0	6,140,172
予備費	1,000,000	0	1,000,000	0	0

(2) 資本的収入及び支出について

資本的収入の決算額は、3,767,000円であり、予算額4,756,000円に対し、989,000円の減である。資本的収入を前年度と比較すると皆増で、国宝重要文化財等保存整備費補助金分である。

資本的支出の決算額は、74,200,289円であり、予算額74,300,000円に対し、99,711円が不用額となった。

資本的支出の内訳は、建設改良費71,705,489円(96.6%)及び地域文化伝承事業開発費2,494,800円(3.4%)である。資本的支出を前年度と比較すると、63,959,404円の増となった。

建設改良費71,705,489円の主なものは、次のとおりである。

飛騨工房(澁倉)茅葺屋根葺替工事	14,847,000円
合掌村倉庫兼作業場工事	6,604,000円
重要文化財「旧大戸家住宅」保存修理事業	7,534,800円
合掌茶屋増築改修工事	4,630,000円

また、地域文化伝承事業開発費2,494,800円は、影絵「しらさぎ伝説」のリニューアル業務委託料である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額70,433,289円は、過年度分損益勘定留保資金66,899,947円及び当年度消費税資本的収支調整額3,533,342円で補てんされている。

収 入

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的収入	4,756,000	3,767,000	△989,000	0	3,767,000

支 出

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的支出	74,300,000	74,200,289	99,711	10,240,885	63,959,404
建設改良費	71,800,000	71,705,489	94,511	4,743,085	66,962,404
地域文化伝承事業開発費	2,500,000	2,494,800	5,200	5,497,800	△3,003,000

3 経営成績

当年度における損益計算書の内訳は、決算審査資料 別表3のとおりである。当年度の経営収支は、総収益 237,119,813 円に対し、総費用 308,947,009 円で、差し引き 71,827,196 円が当年度純損失となった。

最近5年間の総収益に対する総費用は、次表のとおりである。

(単位：円 税抜)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
総 収 益	220,998,851	215,685,732	226,959,487	226,918,908	237,119,813
総 費 用	292,067,646	269,267,464	263,461,393	275,293,430	308,947,009
差 引 額	△71,068,795	△53,581,732	△36,501,906	△48,374,522	△71,827,196

(1) 営業収益及び営業費用について

営業収益は 235,939,312 円で、総収益の 99.6%である。営業収益の内訳は、利用収益 124,122,818 円、販売収益 110,420,023 円、その他営業収益 1,396,471 円である。

営業収益を前年度と比較すると、9,753,956 円の増となったが、これは販売収益 11,206,715 円の増によるものであり、その要因は、施設の統廃合、業務の効率化等を実施した結果によるものである。

営業費用は 302,806,837 円で、その内訳は一般管理費 24,509,017 円、施設経営費 167,927,303 円、販売費用 59,268,254 円、減価償却費 29,593,335 円、資産減耗費 21,508,928 円である。

営業費用を前年度と比較すると、27,546,280 円の増となったが、主に資産減耗費（固定資産再評価による除去）21,508,928 円の増によるものである。

(2) 営業外収益及び営業外費用について

営業外収益は 827,777 円で、総収益の 0.3%である。営業外収益の内訳は、受取利息 260,198 円、雑収益 567,579 円である。営業外収益を前年度と比較すると、94,225 円の増となった。これは主に雑収益 275,048 円の増によるもので、損害賠償保険金等である。営業外費用は皆減で、前年度と比較すると 32,873 円の減となった。

(3) 特別利益及び特別損失について

特別利益は 352,724 円の過年度損益修正益で、総収益の 0.1%である。特別損失は 6,140,172 円の過年度損益修正損で、総費用の 2.0%である。

(4) 収支比率について

最近5年間の収支比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
総収支比率 (総収益対総費用比率)	75.7	80.1	86.1	82.4	76.8
営業収支比率 (営業収益対営業費用比率)	74.7	79.2	84.6	82.2	77.9

総収支比率は、総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。100%を超えた場合は、当該超えた比率分が費用に対する利益の程度を示すもので、100%を下回った場合は、当該下回った比率分が費用に対する損失の程度を示すものである。前年度と比較すると、5.6ポイント低下し76.8%となった。

営業収支比率は、営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が高いほど営業収益率が良いことを表し、100%を下回った場合は、営業損失が生じている。

前年度と比較すると、4.3ポイント低下し77.9%となった。

最近5年間の入場者に対する営業状況は、次表のとおりである。

(単位：円 税抜)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者1人当たり営業収益	1,343	1,364	1,368	1,410	1,418
入場者1人当たり営業費用	1,799	1,723	1,617	1,716	1,820

当年度の入場者数1人当たりの営業収益は1,418円で、前年度対比8円の増となった。1人当たりの営業費用は1,820円で、前年度対比104円の増となり、依然として1人当たりの営業費用が営業収益を上回っている。

(5) 収支について

営業収益235,939,312円から営業費用302,806,837円を差し引いた66,867,525円が営業損失である。営業損失に営業外収益827,777円を加え営業外費用を差し引いた66,039,748円が、経常損失である。これに特別利益352,724円を加え、特別損失6,140,172円を差し引いた71,827,196円が当年度純損失となり、この額に前年度繰越欠損金306,130,026円を加えると、当年度未処理欠損金は377,957,222円となった。

4 財政状態

当年度における貸借対照表の内訳は、決算審査資料 別表4のとおりである。

(1) 資産について

当年度末における資産総額は707,113,649円である。この内訳は、固定資産571,303,320円(80.8%)及び流動資産135,810,329円(19.2%)である。固定資産を前年度と比較すると、13,845,236円の増となった。主な増減の内訳は、有形固定資産の建物24,562,742円の増と構築物6,801,402円の減によるものである。

流動資産を前年度と比較すると、74,154,532円の減となったが、これは主に現金預金

76,356,894 円の減によるものである。

最近5年間の資産構成比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定資産構成比率	51.5	69.3	70.8	72.6	80.8
流動資産構成比率	48.5	30.7	29.2	27.4	19.2

固定資産構成比率及び流動資産構成比率は、それぞれ総資産に対する固定資産及び流動資産の占める割合である。固定資産構成比率が大きければ資本が固定化の傾向にあり、また、流動資産構成比率が大きいと流動性は良好であるといえる。両方の比率の合計は100%となり、前年度に比べ、固定資産構成比率は、8.2ポイント上昇し80.8%、流動資産構成比率は8.2ポイント低下し19.2%となった。

(2) 負債について

当年度末における負債総額は28,819,277円である。この内訳は、未払金23,819,277円(82.7%)、その他流動負債5,000,000円(17.3%)である。

負債総額を前年度と比較すると、7,750,900円の増となったが、これは主に旧大戸家住宅保存修理事業委託料などの未払金9,240,000円の増によるものである。

(3) 資本について

当年度末における資本総額は678,294,372円である。この内訳は、自己資本金979,678,869円(144.4%)、資本剰余金46,703,600円(6.9%)、利益剰余金△348,088,097円(△51.3%)である。

資本総額を前年度と比較すると、68,060,196円の減となったが、これは当年度未処理欠損金が増加したことによる。

(4) 財務比率について

固定比率は、固定資産のうち自己資本の占める割合を示すもので100%以下が望ましい。当年度は、84.2%で、前年度より9.5ポイント上昇している。

流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、通常200%以上が望ましいとされている。当年度は、471.2%で、前年度より525.4ポイント低下している。

当座比率は、流動資産のうち現金預金及び容易に現金化しうる未収金などの当座資産と流動負債とを対比させたもので、通常100%以上が望ましいとされている。当年度は440.0%で、前年度より516.9ポイント低下している。

自己資本構成比率は、総資本に対する自己資本の割合であり、その比率が高いほど健全性が高いとされている。当年度は、95.9%で、前年度より1.4ポイント低下している。

最近5年間の財務比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定比率	54.8	71.6	72.3	74.7	84.2
流動比率	824.3	976.5	1,466.0	996.6	471.2
当座比率	808.5	944.6	1,411.9	956.9	440.0
自己資本構成比率	94.1	96.9	98.0	97.3	95.9

注1：固定比率 [固定資産 ÷ (自己資本金+剰余金) × 100]

2：流動比率 [流動資産 ÷ 流動負債 × 100]

3：当座比率 [(現金預金 + 未収金) ÷ 流動負債 × 100]

4：自己資本構成比率 [(自己資本金 + 剰余金) ÷ 負債資本合計 × 100]

5 むすび

当年度の入場者数は、16万6,342人で前年度に比べ5,979人増加している。うち、有料入場者数は15万6,772人で、前年度に比べ0.1%減少し、無料入場者数は9,570人で、前年度に比べ181.5%増加している。増加した主な要因は、JRのキャンペーンや市民優待等によるものである。有料入場者数は減少したものの、特に、市民に親しんでもらうための入場者の増加は評価するものである。

経営成績についてみると、営業収益は、前年度に比べ、前売り入場券の増加による利用収益の増加(1.7%)や販売収益の増加(11.3%)により、975万3,956円、4.3%増加している。他方、営業費用は、販売費用の増加(7.7%)や固定資産除却に伴う資産減耗費の皆増により2,754万6,280円、10.0%増加している。その結果、営業損失は、前年度に比べ1,779万2,324円、36.3%増加して6,686万7,525円となり、営業収支比率は、前年度に比べ4.3ポイント低下し77.9%となっている。営業損失に営業外損益、特別損益を加減すると、当年度は7,182万7,196円の純損失となり、前年度に比べ2,345万2,674円、48.5%増加し、総収支比率は、前年度に比べ5.6ポイント低下し、76.8%となっている。純損失に前年度繰越欠損金を加えた累積欠損金は3億7,795万7,222円となっている。

また、平成25年度末の流動資産のうち現金預金は1億2,097万3,516円となり、前年度に比べ7,635万6,894円、38.7%減少し、短期的な負債の支払い能力を示す当座比率は440.0%と、前年度に比べ516.9ポイント低下している。

平成25年度の建設改良費、修繕費の状況をみると、当初計画されていた旧大戸家住宅改修工事が、耐震診断の必要を理由に年度当初に不執行とすることが決定され、不用となった事業費が、当初予算に計上のない多くの工事費に振り替えられている。内容は、下呂温泉合掌村経営改善計画に基づく店舗統廃合にかかる工事や、安全対策工事等となっている。実施された工事によって、事故防止等の対策が講じられたことは一定の評価をするものである。しかしながら、地方公営企業の予算は一般会計とは異なり、予算に弾力性を持っていることを考慮しても、予算管理のうえ

では計画性に欠けると言わざるを得ない。ひいては、そのことが地方公営企業の経営の基本原則である経済性の発揮を阻害することになりかねない。突発的なものを除く改修費等は、厳しい財政状態により今後一層の制約が余儀なくされるため必要最小限度にとどめるとともに、収益的支出と資本的支出の経理区分を明確にしたうえで、優先順位をつけて、計画的かつ効率的に実施されることを望むものである。また、魅力ある観光施設は経営の安定が前提となることから、一層の経営改善に期待するものである。

第3節 下呂市立金山病院事業会計

1 業務の概要

(1) 業務状況について

当年度の入院患者数は延べ22,382人となり、前年度より171人減少した。また、外来患者数も280人減少し延べ46,963人だったが、手術件数や検査件数の増加などにより、患者1人当たりの診療収入は、入院については823円増の25,458円、外来については580円増の9,280円となった。

職員数は、看護師の退職などで正職員は、前年度より6名減の81名となったが、臨時職員が准看護師の増などで5名増の45名となり、総職員数は前年度に比べ、1名減の126名となった。

業務の概況は、次表のとおりである。

区 分		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
病 床 数		床	113	113	113	99	99
入院・外来延患者数		人	75,712	74,126	71,529	69,796	69,345
入院延患者数		人	24,824	22,546	20,826	22,553	22,382
入院患者数1日平均		人	67.7	68.0	56.9	61.8	61.3
外来延患者数		人	50,888	51,580	50,703	47,243	46,963
外来患者数1日平均		人	202.2	192.0	188.5	177.6	175.9
病 床 利 用 率		%	60.2	54.7	50.4	59.6	61.9
患者1人当たり診療 収入	入院	円	21,269	23,610	24,131	24,635	25,458
	外来	円	8,055	8,153	8,339	8,700	9,280

注1：病床数は、各年度末のものである。

2：入院延患者数 稼働日数（平21・22・24・25年度365日、平成23年度366日）

3：外来延患者数 診療日数（平成21年度265日、平成22・24年度266日、平成23年度269日 平成25年度267日）

4：病床利用率 延入院患者数÷（許可病床数×稼働日数）×100

（平成24年度の許可病床数は7月まで113床、8月から99床）

最近5年間の職員数の状況は次のとおりである。

(単位:人)

区 分	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員
医 師	8	(12)	8	(9)	8	(9)	8	(9)	8	(9)
薬 剤 師	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
放射線技師	5	0	5	1	6	0	6	0	5	1
検 査 技 師	4	1	4	0	5	0	5	0	5	0
理学療法士	4	0	4	0	4	0	4	1	4	0
作業療法士	1	0	1	1	1	1	2	0	2	0
歯科衛生士	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
臨床工学技士	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
栄 養 士	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
看 護 師	27	5	28	5	29	8	33	8	30	8
准 看 護 師	9	5	11	4	11	5	11	5	9	8
看 護 助 手	8	9	8	11	7	12	4	13	4	15
ソーシャルワーカー			0	0	1	0	1	0	1	0
事 務 職 員	6	2	6	2	6	2	7	2	7	2
その他の労務員	0	7	0	9	0	11	0	11	0	11
計	78	29	81	33	84	39	87	40	81	45
合 計	107		114		123		127		126	

※ () 内は非常勤である。

(2) 診療科別入院・外来患者数について

当病院の利用状況は、入院・外来延患者数合計 69,345 人で、前年度に比べ 451 人減少している。診療科別では、主に内科の患者数が 1,241 人と増えたが、外科、小児科、耳鼻咽喉科、歯科は患者数が減少した。

内訳は、内科は入院が 553 人増の 10,672 人、外来は 688 人増の 18,701 人で入院・外来とも増加した。外科は、入院が 921 人減の 11,427 人、外来は 127 人減の 9,320 人となった。小児科は、入院が 202 人増の 283 人となったものの、外来は 494 人減の 10,335 人となった。耳鼻咽喉科の外来は診療時間を午前のみとしたことなども影響し 321 人減となり 1,481 人となった。人工透析の患者数は年々増加傾向にあり今年度は 115 人増の 1,857 人となった。歯科の外来は 141 人減の 5,269 人となった。

最近5年間の診療科別患者数

(単位：人)

科 別		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内 科	入院	9,873	8,837	8,860	10,119	10,672
	外来	20,458	19,650	19,474	18,013	18,701
外 科	入院	14,865	13,674	11,909	12,348	11,427
	外来	10,967	10,972	10,861	9,447	9,320
小 児 科	入院	86	28	56	81	283
	外来	10,216	11,838	11,404	10,829	10,335
耳鼻咽喉科	入院	0	0	0	5	0
	外来	2,160	1,881	1,859	1,802	1,481
人工透析	入院	0	0	0	0	0
	外来	1,150	1,334	1,471	1,742	1,857
歯 科	入院	0	7	1	0	0
	外来	5,937	5,905	5,634	5,410	5,269
合 計	入院	24,824	22,546	20,826	22,553	22,382
	外来	50,888	51,580	50,703	47,243	46,963
	計	75,712	74,126	71,529	69,796	69,345

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出について

収益的収入の決算額は1,278,096,805円であり、予算額1,282,677,000円に対し、4,580,195円の減となった。収益的収入の内訳は、医業収益1,105,409,283円(86.5%)、医業外収益170,945,241円(13.4%)、特別利益1,742,281円(0.1%)である。収益的収入を前年度と比較すると、61,466,021円の増となった。これは主に、医業収益の入院収益、外来収益の増及び、医業外収益の負担金交付金(一般会計繰入金)の増によるものである。

収益的支出の決算額は1,363,183,955円であり、予算額1,401,896,000円に対し、38,712,045円が不用額となった。収益的支出の内訳は、医業費用1,323,954,772円(97.1%)、医業外費用30,242,134円(2.2%)、特別損失8,987,049円(0.7%)である。

収益的支出を前年度と比較すると、374,917,832円の減となった。主な内訳は、特別損失のその他特別損失(旧金山病院に係る除去費、廃棄物処理委託費、病院移転に伴う医療機器移設に係る費用)453,512,904円の減と、医業費用の減価償却費86,460,390円の増である。

収入

(単位：円 税込)

区分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
病院事業収益	1,282,677,000	1,278,096,805	△4,580,195	1,216,630,784	61,466,021
医業収益	1,112,213,000	1,105,409,283	△6,803,717	1,061,617,001	43,792,282
医業外収益	170,464,000	170,945,241	481,241	151,483,783	19,461,458
特別利益	0	1,742,281	1,742,281	3,530,000	△1,787,719

支出

(単位：円 税込)

区分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
病院事業費用	1,401,896,000	1,363,183,955	38,712,045	1,738,101,787	△374,917,832
医業費用	1,362,641,000	1,323,954,772	38,686,228	1,231,254,171	92,700,601
医業外費用	30,403,000	30,242,134	160,866	39,083,902	△8,841,768
特別損失	8,852,000	8,987,049	△135,049	467,763,714	△458,776,665

(2) 資本的収入及び支出について

資本的収入の決算額は 20,498,500 円であり、予算額 20,198,000 円に対し 300,500 円の増となった。資本的収入の内訳は、出資金 20,001,000 円 (97.6%)、寄付金 347,500 円 (1.7%)、返還金 150,000 円 (0.7%) である。資本的収入を前年度と比較すると 915,017,500 円の減となった。これは新病院建設の企業債、国県支出金の減によるものである。

資本的支出の決算額は 41,466,657 円であり、予算額 42,503,000 円に対し、1,036,343 円が不用額となった。資本的支出の内訳は、建設改良費 1,263,664 円 (3.0%)、企業債償還金 40,002,993 円 (96.5%)、投資 200,000 円 (0.5%) である。資本的支出を前年度と比較すると、937,903,433 円の減となったが、これは新病院建設に伴う建設改良費の減によるものである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 20,968,157 円は、消費税資本的収支調整額 60,174 円及び過年度分損益勘定留保資金 20,907,983 円で補てんされている。

収入

(単位：円 税込)

区分	予算額 A	決算額 B	予算額に比べ決算額の増減 B-A	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的収入	20,198,000	20,498,500	300,500	935,516,000	△915,017,500
出資金	20,001,000	20,001,000	0	7,165,000	12,836,000
国県支出金	0	0	0	127,671,000	△127,671,000
繰入金	0	0	0	7,560,000	△7,560,000
企業債	0	0	0	792,200,000	△792,200,000
寄付金	197,000	347,500	150,500	920,000	△572,500
返還金	0	150,000	150,000	0	150,000

支 出

(単位：円 税込)

区 分	予算額 A	決算額 B	不用額 A-B	24年度決算額 C	対前年決算増減 B-C
資本的支出	42,503,000	41,466,657	1,036,343	979,370,090	△937,903,433
建設改良費	1,500,000	1,263,664	236,336	964,438,646	△963,174,982
企業債償還金	40,003,000	40,002,993	7	14,331,444	25,671,549
投 資	1,000,000	200,000	800,000	600,000	△400,000

3. 経営成績

当年度における損益計算書の内訳は、決算審査資料 別表5のとおりである。当年度の経営収支は、総収益1,274,571,700円に対し、総費用1,368,380,148円で、差引き93,808,448円が当年度純損失となった。

最近5年間の総収益に対する総費用は、次のとおりである。

(単位：円 税抜)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
総 収 益	1,144,656,002	1,170,319,845	1,157,281,863	1,213,410,940	1,274,571,700
総 費 用	1,219,385,008	1,187,079,119	1,202,419,454	1,720,774,208	1,368,380,148
差 引 額	△ 74,729,006	△ 16,759,274	△ 45,137,591	△ 507,363,268	△93,808,448

(1) 医業収益及び医業費用について

医業収益は1,102,280,849円で、総収益の86.5%である。内訳は、入院収益569,799,500円、外来収益435,831,800円、その他医業収益96,649,549円である。医業収益を前年度と比較すると、43,558,450円の増となった。これは、主に入院収益14,206,068円と、外来収益24,833,174円の増によるものである。なお、手術件数や検査件数は増加している。

医業費用は1,312,949,690円で、総費用の95.9%である。医業費用の主な内訳は、給与費770,423,649円、材料費174,663,503円、経費253,345,598円、減価償却費111,222,473円である。医業費用を前年度と比較すると、93,665,382円の増となったが、これは主に減価償却費86,460,390円の増によるものである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
医業収支比率	85.2	89.1	85.8	86.8	84.0

$$\text{医業収支比率} = \text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$$

医業収支比率は、医業活動の収益性を示すもので、数字が高いほど効率的な経営を行っていることを示す。当年度は84.0%で、前年度に比べ2.8ポイント低下している。

(2) 医業外収益及び医業外費用について

医業外収益は170,631,535円で、総収益の13.4%である。主な内訳は、負担金交付金

150,017,000 円、他会計補助金 13,688,000 円である。医業外収益を前年度と比較すると 19,472,994 円の増となったが、これは主に、負担金交付金 21,097,000 円の増によるもので、一般会計繰入金の不採算地区病院に要する経費などが増えたためである。

医業外費用は 46,450,104 円で、総費用の 3.4%である。医業外費用の主な内訳は、雑支出 20,998,820 円、支払利息及び企業債取扱諸費 19,996,083 円、繰延勘定償却 5,161,000 円である。医業外費用を前年度決算額と比較すると、7,369,321 円の増となったが、これは主に支払利息及び企業債取扱諸費 5,124,182 円、繰延勘定償却 5,161,000 円の増によるものである。

(3) 特別利益及び特別損失について

特別利益は、過年度損益修正益 1,659,316 円である。特別損失は 8,980,354 円で、これは過年度損益修正損 155,194 円及びその他特別損失 8,825,160 円である。特別損失を前年度と比較すると 453,428,763 円の減となったが、これは旧金山病院に係る除去費などのその他特別損失 453,512,904 円の減によるものである。

(4) 収支について

医業収益 1,102,280,849 円から医業費用 1,312,949,690 円を差し引いた 210,668,841 円が、医業損失である。医業外収益 170,631,535 円から医業外費用 46,450,104 円を差し引いた 124,181,431 円が、医業外利益である。医業損失から医業外利益を差し引いた 86,487,410 円が経常損失である。これに特別利益 1,659,316 円を加え、特別損失 8,980,354 円を差し引いた 93,808,448 円が当年度純損失となり、前年度繰越欠損金 965,979,140 円を加えると、当年度未処理欠損金は 1,059,787,588 円となった。

4 財政状態

当年度における貸借対照表の内訳は、決算審査資料 別表 6 のとおりである。

(1) 資産について

当年度末における資産総額は 2,695,206,477 円である。この内訳は固定資産 2,403,571,562 円 (89.2%)、流動資産 193,572,086 円 (7.2%)、及び繰延勘定 98,062,829 円 (3.6%) である。固定資産を前年度と比較すると 118,794,143 円の減となったが、これは主に、建物 32,632,729 円の減と、器械備品 77,386,254 円の減によるものである。流動資産を前年度と比較すると 110,912,483 円の減となったが、これは現金預金 91,037,419 円の減によるものである。

また、繰延勘定を前年度と比較すると 5,161,000 円 (控除対象外消費税額) の減となった。

(2) 負債について

当年度末における負債総額は 90,528,367 円である。この内訳は、固定負債の引当金 3,440,495

円 (3.8%)、流動負債の一時借入金 30,000,000 円 (33.1%)、未払金 49,091,684 円 (54.2%)、未払消費税 2,229,700 円 (2.5%)、預り金 5,766,488 円 (6.4%) である。負債総額を前年度と比較すると 121,404,685 円の減となったが、これは一時借入金 50,000,000 円の減と、未払金 73,674,638 円の減によるものである。

(3) 資本について

当年度末における資本総額は 2,604,678,110 円である。この内訳は資本金 3,023,517,499 円 (116.1%) 及び剰余金△418,839,389 円 (△16.1%) である。資本金を前年度と比較すると 20,001,993 円の減となったが、これは自己資本金 20,001,000 円の増と、借入資本金 40,002,993 円の減によるものである。剰余金を前年度と比較すると△93,460,948 円の増となったが、これは主に利益剰余金の当年度未処理欠損金の増によるものである。

(4) 財務比率について

固定比率は、固定資産のうち自己資本の占める割合を示すもので 100%以下が望ましい。当年度は 284.9%で、前年度より 9.9 ポイント上昇している。

固定資産対長期資本比率は固定資産の調達に、自己資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、少なくとも 100%以下であることが望ましく、100%を超えている場合には、固定資産の一部が一時借入金のような短期資金で充てられていることを示す。当年度は 92.2%で、前年度より 0.5 ポイント低下している。

流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、通常 200%以上が望ましいとされている。当年度は 222.3%で、前年度より 76.3 ポイント上昇している。

当座比率は、流動資産のうち現金預金及び容易に現金化する未収金などの当座資産と流動資産とを対比させたもので、通常 100%以上が望ましいとされている。当年度は 214.0%で、前年度より 75.2 ポイント上昇している。

自己資本構成比率は、総資本に対する自己資本の割合であり、その比率が高いほど健全性が高いとされている。当年度は、31.3%で、前年度と同じである。

最近5年間の財務比率は、次表のとおりである。

(単位：%)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定比率	79.6	84.6	157.7	275.0	284.9
固定資産対長期資本比率	71.2	73.5	88.9	92.7	92.2
流動比率	519.8	305.7	130.0	146.0	222.3
当座比率	510.1	297.6	129.4	138.8	214.0
自己資本構成比率	83.7	77.0	41.2	31.3	31.3

注 1：固定比率	[固定資産 ÷ (自己資本金+剰余金) × 100]
2：固定資産対長期資本比率	[固定資産 ÷ (資本金+剰余金+固定負債) × 100]
3：流動比率	[流動資産 ÷ 流動負債 × 100]
4：当座比率	[(現金預金 + 未収金) ÷ 流動負債 × 100]
5：自己資本構成比率	[(自己資本金 + 剰余金) ÷ 負債資本合計 × 100]

5 むすび

当年度の入院患者数は2万2,382人で、前年度に比べ0.8%減少し、外来患者数は4万6,963人で、前年度に比べ0.6%減少している。病床利用率は61.9%で、前年度に比べ2.3ポイント上昇している。

経営成績についてみると、医業収益は、入院収益の増加(2.6%)や外来収益の増加(6.0%)等によって、前年度に比べ4,355万8,450円、4.1%増加している。他方、医業費用は、減価償却費が大きく増加(349.2%)したことによって、前年度に比べ9,366万5,382円、7.7%増加している。医業収支をみると、医業損失は前年度に比べ5,010万6,932円、31.2%増加して、2億1,066万8,841円となり、医業収支比率は、前年度に比べ2.8ポイント低下して84.0%となっている。医業外収益は、不採算地区病院特別交付税措置等にかかる一般会計繰入金の増加によって前年度に比べ1,947万2,994円、12.9%増加している。他方、医業外費用は、支払利息及び企業債取扱諸費の増加(34.5%)や繰延勘定償却の皆増により、前年度に比べ736万9,321円、18.9%増加している。特別利益は、前年度に比べ187万684円、53.0%減少し、特別損失は、旧病院にかかる除却費の減等により、4億5,342万8,763円、98.1%減少している。医業損失に、医業外収益、医業外費用、特別利益、特別損失を加減すると、当年度は9,380万8,448円の純損失となり、前年度に比べ4億1,355万4,820円、81.5%減少している。この額に前年度繰越欠損金を加えた累積欠損金は、10億5,978万7,588円となっている。また、経常収支比率は、前年度より2.5ポイント減少して93.6%となっている。

企業債の当年度末現在高は、前年度に比べ2.2%減少して17億6,094万8,162円となっている。また、資金不足に対処するため1億円の一時的借入れが執行され、当年度末残高は3,000万円となっている。これは、地方公営企業法第29条第2項ただし書きによる借り換え分で、2年連続して執行されていることから、常態化することのないよう一時借入金の解消に向けた経営改善を望むものである。

国の「公立病院改革ガイドライン」を受けて、平成21年度に始まった「下呂市立金山病院改革プラン」は平成25年度で終了し、現在、同改革プランにかかる収支計画が推進されている。これまでの目標値の達成状況を見ると、病床利用率、財務指標等未達成のものもあるが、基準病床数、看護配置基準等は達成され、病院一丸となった経営改善や、市民に親しまれる病院を目指した取り組みが積極的に行われていることは評価するものである。医療提供体制の確保や財政運営など、病院事業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況ではあるが、地域の公立病院に求められる地域医療の確保と経営の効率化の両立に期待するものである。

決 算 審 查 資 料

別表 1	下呂市水道事業比較損益計算書	8 8
別表 2	下呂市水道事業比較貸借対照表	9 0
別表 3	下呂市下呂温泉合掌村事業比較損益計算書	9 2
別表 4	下呂市下呂温泉合掌村事業比較貸借対照表	9 4
別表 5	下呂市立金山病院事業比較損益計算書	9 6
別表 6	下呂市立金山病院事業比較貸借対照表	9 8

別表 1

下呂市水道事業

費用の部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	(A) - (B)
営業費用	217,180,509	94.1	227,874,696	93.3	△ 10,694,187
原水及び浄水費	39,858,573	17.3	35,461,411	14.5	4,397,162
配水及び給水費	5,445,624	2.3	6,356,389	2.6	△ 910,765
総 係 費	38,305,549	16.6	47,024,524	19.3	△ 8,718,975
減価償却費	133,406,549	57.8	133,913,607	54.8	△ 507,058
資産減耗費	164,214	0.1	5,118,765	2.1	△ 4,954,551
営業外費用	11,555,236	5.0	11,867,268	4.9	△ 312,032
支払利息	11,555,236	5.0	11,835,568	4.9	△ 280,332
雑 支 出	0	0.0	31,700	0.0	△ 31,700
特別損失	2,124,005	0.9	4,399,453	1.8	△ 2,275,448
過年度損益修正損	2,124,005	0.9	4,399,453	1.8	△ 2,275,448
計	230,859,750	100.0	244,141,417	100.0	△ 13,281,667
当年度純利益	2,422,462		0		2,422,462

比較損益計算書

(単位：円・% 税抜)

収 益 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	(A) - (B)
営業収益	232,360,653	99.6	236,641,890	99.4	△ 4,281,237
給水収益	232,185,393	99.5	236,460,915	99.3	△ 4,275,522
その他営業収益	175,260	0.1	180,975	0.1	△ 5,715
営業外収益	921,559	0.4	1,332,217	0.6	△ 410,658
受取利息	252,053	0.1	156,273	0.1	95,780
雑収益	669,506	0.3	1,175,944	0.5	△ 506,438
計	233,282,212	100.0	237,974,107	100.0	△ 4,691,895
当年度純損失	0		6,167,310		△ 6,167,310

別表 2

下呂市水道事業

資 産 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減 (A) - (B)
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	
固 定 資 産	3,302,359,558	86.4	3,324,006,841	89.5	△ 21,647,283
有 形 固 定 資 産	3,302,318,957	86.4	3,323,966,240	89.5	△ 21,647,283
土 地	316,905,545	8.3	316,905,545	8.5	0
建 物	464,648,475	12.2	474,187,626	12.8	△ 9,539,151
構 築 物	1,495,420,177	39.1	1,460,363,883	39.3	35,056,294
機 械 及 び 装 置	987,683,784	25.8	1,045,261,587	28.2	△ 57,577,803
車 両 運 搬 具	761,810	0.0	977,360	0.0	△ 215,550
工 具 器 具 及 び 備 品	3,399,166	0.1	1,770,239	0.1	1,628,927
建 設 仮 勘 定	33,500,000	0.9	24,500,000	0.6	9,000,000
無 形 固 定 資 産	40,601	0.0	40,601	0.0	0
電 話 加 入 権	40,600	0.0	40,600	0.0	0
そ の 他 無 形 固 定 資 産	1	0.0	1	0.0	0
流 動 資 産	519,423,029	13.6	388,049,196	10.5	131,373,833
現 金 ・ 預 金	485,020,484	12.7	353,796,479	9.6	131,224,005
前 年 度 未 収 金	2,270,193	0.1	3,869,707	0.1	△ 1,599,514
営 業 未 収 金	21,652,223	0.5	21,710,107	0.6	△ 57,884
そ の 他 未 収 金	1,998,192	0.1	313,388	0.0	1,684,804
貯 蔵 品	3,481,937	0.1	3,359,515	0.1	122,422
そ の 他 流 動 資 産	5,000,000	0.1	5,000,000	0.1	0
合 計	3,821,782,587	100.0	3,712,056,037	100.0	109,726,550

比較貸借対照表

(単位：円・% 税抜)

負債・資本の部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	(A) - (B)
流動負債	105,991,040	2.8	58,880,144	1.6	47,110,896
未払金	86,755,951	2.3	34,850,096	0.9	51,905,855
未払消費税	0	0.0	6,608,300	0.2	△ 6,608,300
その他流動負債	19,235,089	0.5	17,421,748	0.5	1,813,341
資 本 金	2,796,629,230	73.2	2,737,615,038	73.7	59,014,192
自己資本金	2,148,444,678	56.2	2,148,444,678	57.9	0
借入資本金	648,184,552	17.0	589,170,360	15.8	59,014,192
剰 余 金	919,162,317	24.0	915,560,855	24.7	3,601,462
資本剰余金	666,801,392	17.4	665,622,392	17.9	1,179,000
国庫補助金	395,828,308	10.3	395,828,308	10.7	0
工事負担金	240,438,950	6.3	239,259,950	6.4	1,179,000
受贈財産評価額	30,534,134	0.8	30,534,134	0.8	0
利益剰余金	252,360,925	6.6	249,938,463	6.7	2,422,462
減債積立金	80,686,233	2.1	80,686,233	2.2	0
建設改良積立金	52,560,874	1.4	52,560,874	1.4	0
当年度未処分利益剰余金	119,113,818	3.1	116,691,356	3.1	2,422,462
合 計	3,821,782,587	100.0	3,712,056,037	100.0	109,726,550

別表 3

下呂市下呂温泉合掌村事業

費用の部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減 (A) - (B)
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	
営業費用	302,806,837	98.0	275,260,557	100.0	27,546,280
一般管理費	24,509,017	7.9	24,195,529	8.8	313,488
施設経営費	167,927,303	54.3	164,663,975	59.8	3,263,328
販売費用	59,268,254	19.2	55,014,046	20.0	4,254,208
減価償却費	29,593,335	9.6	31,387,007	11.4	△ 1,793,672
資産減耗費	21,508,928	7.0	0	—	21,508,928
営業外費用	0	—	32,873	0.0	6,107,299
支払利息及び企業 債取扱い諸費	0	—	32,873	0.0	△ 32,873
特別損失	6,140,172	2.0	0	—	6,140,172
過年度損益修正損	6,140,172	2.0	0	—	6,140,172
計	308,947,009	100.0	275,293,430	100.0	33,653,579
当年度純利益	0		0		0

比較損益計算書

(単位：円・% 税抜)

収 益 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減 (A) - (B)
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	
営業収益	235,939,312	99.6	226,185,356	99.7	9,753,956
利用収益	124,122,818	52.4	122,101,020	53.8	2,021,798
販売収益	110,420,023	46.6	99,213,308	43.7	11,206,715
その他営業収益	1,396,471	0.6	4,871,028	2.2	△ 3,474,557
営業外収益	827,777	0.3	733,552	0.3	94,225
受取利息	260,198	0.1	441,021	0.2	△ 180,823
雑収益	567,579	0.2	292,531	0.1	275,048
特別利益	352,724	0.1	0	—	352,724
過年度損益修正益	352,724	0.1	0	—	352,724
計	237,119,813	100.0	226,918,908	100.0	10,200,905
当年度純損失	71,827,196		48,374,522		23,452,674

別表 4

下呂市下呂温泉合掌村事業

資 産 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	(A) - (B)
固 定 資 産	571,303,320	80.8	557,458,084	72.6	13,845,236
有 形 固 定 資 産	547,433,840	77.4	527,516,641	68.7	19,917,199
土 地	120,795,997	17.1	120,795,997	15.7	0
建 物	288,795,184	40.9	264,232,442	34.4	24,562,742
構 築 物	123,141,974	17.4	129,943,376	16.9	△ 6,801,402
機 械 及 び 装 置	6,586,830	0.9	4,037,048	0.6	2,549,782
車 両 運 搬 具	31,900	0.0	34,771	0.0	△ 2,871
工 具 器 具 及 び 備 品	8,081,955	1.1	8,473,007	1.1	△ 391,052
無 形 固 定 資 産	23,869,480	3.4	29,941,443	3.9	△ 6,071,963
電 話 加 入 権	216,500	0.0	216,500	0.0	0
施 設 利 用 権	1,158,480	0.2	1,544,640	0.2	△ 386,160
文 化 伝 承 事 業 開 発 費	22,494,500	3.2	28,180,303	3.7	△ 5,685,803
流 動 資 産	135,810,329	19.2	209,964,861	27.4	△ 74,154,532
現 金 預 金	120,973,516	17.1	197,330,410	25.7	△ 76,356,894
未 収 金	5,838,038	0.8	4,265,937	0.6	1,572,101
貯 蔵 品	3,998,775	0.6	3,368,514	0.4	630,261
そ の 他 流 動 資 産	5,000,000	0.7	5,000,000	0.7	0
合 計	707,113,649	100.0	767,422,945	100.0	△ 60,309,296

比較貸借対照表

(単位:円・% 税抜)

負債・資本の部					
科目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金額(A)	構成比	金額(B)	構成比	(A) - (B)
流動負債	28,819,277	4.1	21,068,377	2.7	7,750,900
未払金	23,819,277	3.4	14,579,277	1.9	9,240,000
未払消費税	0	0.0	1,489,100	0.2	△ 1,489,100
その他流動負債	5,000,000	0.7	5,000,000	0.6	0
資本金	979,678,869	138.5	979,678,869	127.7	0
自己資本金	979,678,869	138.5	979,678,869	127.7	0
剰余金	△ 301,384,497	△ 42.6	△ 233,324,301	△ 30.4	△ 68,060,196
資本剰余金	46,703,600	6.6	42,936,600	5.6	3,767,000
他会計補助金	46,703,600	6.6	42,936,600	5.6	3,767,000
利益剰余金	△ 348,088,097	△ 49.2	△ 276,260,901	△ 36.0	△ 71,827,196
建設改良積立金	29,869,125	4.2	29,869,125	3.9	0
当年度未処理欠損金	△ 377,957,222	△ 53.4	△ 306,130,026	△ 39.9	△ 71,827,196
合計	707,113,649	100.0	767,422,945	100.0	△ 60,309,296

別表 5

下呂市立金山病院事業

費用の部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	(A) - (B)
医業費用	1,312,949,690	95.9	1,219,284,308	70.8	93,665,382
給与費	770,423,649	56.3	770,930,451	44.8	△ 506,802
材料費	174,663,503	12.8	163,447,801	9.5	11,215,702
経費	253,345,598	18.5	257,049,693	14.9	△ 3,704,095
減価償却費	111,222,473	8.1	24,762,083	1.4	86,460,390
資産減耗費	263,671	0.0	406,337	0.0	△ 142,666
研究研修費	3,030,796	0.2	2,687,943	0.2	342,853
医業外費用	46,450,104	3.4	39,080,783	2.3	7,369,321
支払利息及び 企業債取扱諸費	19,996,083	1.5	14,871,901	0.9	5,124,182
雑支出	20,998,820	1.5	23,500,931	1.4	△ 2,502,111
雑損失	294,201	0.0	707,951	0.0	△ 413,750
繰延勘定償却	5,161,000	0.4	0	—	5,161,000
特別損失	8,980,354	0.7	462,409,117	26.9	△ 453,428,763
過年度損益修正損	155,194	0.0	71,053	0.0	84,141
その他特別損失	8,825,160	0.7	462,338,064	26.9	△ 453,512,904
計	1,368,380,148	100.0	1,720,774,208	100.0	△ 352,394,060
当年度純利益	0		0		0

比較損益計算書

(単位：円・% 税抜)

収 益 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	(A) - (B)
医業収益	1,102,280,849	86.5	1,058,722,399	87.3	43,558,450
入院収益	569,799,500	44.7	555,593,432	45.8	14,206,068
外来収益	435,831,800	34.2	410,998,626	33.9	24,833,174
その他医業収益	96,649,549	7.6	92,130,341	7.6	4,519,208
医業外収益	170,631,535	13.4	151,158,541	12.4	19,472,994
受取利息及び配当金	21,852	0.0	111,460	0.0	△ 89,608
他会計補助金	13,688,000	1.1	15,621,000	1.3	△ 1,933,000
負担金交付金	150,017,000	11.8	128,920,000	10.6	21,097,000
患者外給食収益	104,294	0.0	102,865	0.0	1,429
その他医業外収益	6,800,389	0.5	6,403,216	0.5	397,173
特別利益	1,659,316	0.1	3,530,000	0.3	△ 1,870,684
過年度損益修正益	1,659,316	0.1	0	—	1,659,316
その他特別利益	0	0.0	3,530,000	0.3	△ 3,530,000
計	1,274,571,700	100.0	1,213,410,940	100.0	61,160,760
当年度純損失	93,808,448		507,363,268		△ 413,554,820

別表 6

下呂市立金山病院事業

資 産 の 部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減 (A) - (B)
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	
固 定 資 産	2,403,571,562	89.2	2,522,365,705	86.1	△ 118,794,143
有形固定資産	2,402,771,562	89.2	2,521,165,705	86.0	△ 118,394,143
土 地	1,424,865	0.1	9,800,025	0.3	△ 8,375,160
建 物	1,919,986,653	71.2	1,952,619,382	66.6	△ 32,632,729
構 築 物	101,000	0.0	101,000	0.0	0
器 械 備 品	478,726,215	17.8	556,112,469	19.0	△ 77,386,254
車 両	2,532,829	0.1	2,532,829	0.1	0
投 資	800,000	0.0	1,200,000	0.1	△ 400,000
長期貸付金	800,000	0.0	1,200,000	0.1	△ 400,000
流 動 資 産	193,572,086	7.2	304,484,569	10.4	△ 110,912,483
現 金 預 金	31,961,710	1.2	122,999,129	4.2	△ 91,037,419
未 収 金	154,394,605	5.7	166,461,835	5.7	△ 12,067,230
未収消費税	0	0.0	6,251,416	0.2	△ 6,251,416
貯 蔵 品	7,215,771	0.3	8,772,189	0.3	△ 1,556,418
繰 延 勘 定	98,062,829	3.6	103,223,829	3.5	△ 5,161,000
控除対象外消費税額	98,062,829	3.6	103,223,829	3.5	△ 5,161,000
合 計	2,695,206,477	100.0	2,930,074,103	100.0	△ 234,867,626

比較貸借対照表

(単位：円・% 税抜)

負債・資本の部					
科 目	平成25年度		平成24年度		比較増減
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	(A) - (B)
固定負債	3,440,495	0.1	3,440,495	0.1	0
引当金	3,440,495	0.1	3,440,495	0.1	0
流動負債	87,087,872	3.2	208,492,557	7.1	△ 121,404,685
一時借入金	30,000,000	1.1	80,000,000	2.7	△ 50,000,000
未払金	49,091,684	1.8	122,766,322	4.2	△ 73,674,638
未払消費税	2,229,700	0.1	0	—	2,229,700
預り金	5,766,488	0.2	5,726,235	0.2	40,253
資本金	3,023,517,499	112.2	3,043,519,492	103.9	△ 20,001,993
自己資本金	1,262,569,337	46.9	1,242,568,337	42.4	20,001,000
借入資本金	1,760,948,162	65.3	1,800,951,155	61.5	△ 40,002,993
剰余金	△ 418,839,389	△ 15.5	△ 325,378,441	△ 11.1	△ 93,460,948
資本剰余金	623,728,199	23.2	623,380,699	21.3	347,500
国庫補助金	19,157,750	0.7	19,157,750	0.7	0
県補助金	578,175,000	21.5	578,175,000	19.7	0
受贈財産評価額	1,908,849	0.1	1,908,849	0.1	0
寄付金	24,486,600	0.9	24,139,100	0.8	347,500
利益剰余金	△ 1,042,567,588	△ 38.7	△ 948,759,140	△ 32.4	△ 93,808,448
減債積立金	17,220,000	0.6	17,220,000	0.6	0
当年度未処理欠損金	△ 1,059,787,588	△ 39.3	△ 965,979,140	△ 33.0	△ 93,808,448
合 計	2,695,206,477	100.0	2,930,074,103	100.0	△ 234,867,626